



# Forest 群馬県森連時報

vol.503

【発行所】  
群馬県森林組合連合会  
前橋市上大島町182-20  
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】  
株式会社総合PR  
前橋市元総社町936-4  
TEL.027(253)8331(代)

## INDEX

森林組合監事研修会 開催	1	「緑の雇用」事業	7
森林組合初任者経理研修会 開催	2	ぐんま林業就業支援研修	8
群馬県林業現場作業の労災多発改善 緊急対策会議(Web) 開催	2	農林中央金庫 こども食堂へ木製品寄贈	9
スマート林業の実践へ 「業務日報・収支管理支援システム」利用説明会 オンラインで開催	2~3	烏川流域森林組合による SDGs (医・農・林)連携	9
森林組合労働安全対策会議	3~4	森林組合ニューフェイス	10~11
森林組合林産・販売事業会議 開催	4	群馬県環境森林部 人事異動	11
令和4年度 伐倒技術者育成講習 (Check&Clinic)研修 開催	5~6	県森連 機構改正及び人事異動	12
		あとがき	12

## 森林組合監事研修会 開催

去る3月14日、「森林組合監事研修会」を前橋商工会議所において総勢50名の参加で開催した。

まず初めに県森連代表監事であり公認会計士の鴻田氏より、「適格請求書等保存方式(インボイス制度)について」と題し、仕入税額控除の仕組みやインボイス制度のねらい、簡易課税制度等について説明がなされた。また、監事監査は組織の正しい運営のために必要なものであり、「悪いことをしたら見つかる」という雰囲気をつくるのが不正防止のために大切であると話がいった。

次に県森連指導部 高橋部長より、「監事監査のポイントと具体的な監査手続き」と題し、監事監査の際に確認してほしい箇所について説明が行われた。特に文書処理に関し起案、回

議決済は省略されることが見受けられるので、よく確認してほしい箇所であると述べた。また配布された資料は監事監査の際に活用できるマニュアルとなっており、効果的な監査実施のために役立ててもらいたいと述べた。

最後に群馬県林業振興課 新井補佐と鈴木技師より、「森林組合常例検査の主な着眼点と指摘事項の改善について」と題し説明が行われた。初めに新井補佐より、全国的に協同組合での不適正事案が一定数発生していること、監事監査では会計監査が主となりがちなため業務監査も積極的に行ってほしいことが伝えられた。次に鈴木技師より、常例検査についての目的や流れ、検査内容や過去の指摘事項等の説明と、林野庁からの監督指針を基に監事に期待することについて説明が行われた。



▲ 鴻田代表監事



▲ 県林業振興課 鈴木氏



▲ 森林組合監事研修会

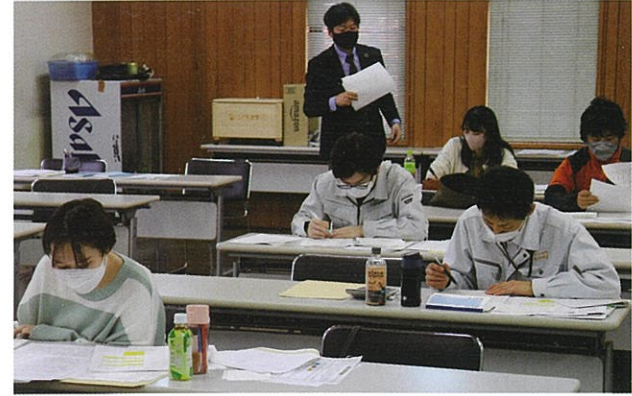
### 森林組合初任者経理研修会 開催

去る3月23日に県森連研修室において系統職員11名の参加で森林組合初任者経理研修会を開催した。この研修会は県内森林組合に過去2年以内に採用された経験の浅い職員を対象に行われ、県森連指導部 高橋部長より「森林組合会計・簿記概論」と題して損益計算書や貸借対照表等の財務諸表についての解説や森林組合会計や簿記を中心に振替伝

票の起票から仕訳帳・元帳の記入、残高試算表への記入手順などの説明を行った。その後は「森林組合簿記」演習を行い、伝票記入・仕訳帳記入・残高試算表の作成に取り組んだ。初心者の皆さんが、この研修内容を業務に活かし、スキルアップされることを期待したい。



▲初任者経理研修会



▲演習の様子

### 群馬県林業現場作業の労災多発改善 緊急対策会議(Web) 開催

令和4年度に群馬県内の林業現場で労働災害が多発している事態を受け、群馬県が令和5年3月13日に『群馬県林業作業現場の災害・事故多発警報』が発令された。

県内森林組合においても休業を伴う労働事故の累計が7件となり、極めて憂慮すべき事態となっている。

この発令を受けて県森連では4月13日に群馬県林業現場作業の労災多発改善緊急対策会議(Web)を開催した。

会議には、急な開催ではあったが常勤役員等の経営管理者や県職員ら30名が参加いただいた。林災防県森連分会長でもある県森連 鈴木専務の挨拶に続き、群馬県環境森林部

森林局 林業振興課 林業担い手対策室 竹内室長より、警報発令の経緯を含め挨拶された。

次に林業振興課 林業担い手対策室 生産力強化係 荒井係長より『群馬県林業作業現場の災害・事故多発警報』発令の経緯等について説明いただいた。

なお、この会議を受け、改めて各森林組合での災害・事故多発警報への対応としての安全対策等について報告いただき、この内容を森林組合間において早期に情報共有していただくため、4月26日に森林組合労働安全対策会議を開催している。

### スマート林業の実践へ 「業務日報・収支管理支援システム」利用説明会 オンラインで開催

県森連では昨年度、会員森林組合での業務日報に基づく収支管理と事業費振替業務の効率化に資するツールとして、「業務日報・収支管理支援システム」を開発・導入した。これは、既に導入済のクラウドシステム「木材SCMシステム(スマート生産販売流通管理システム)」に、機能追加したもの

で、4月13日(木)にこの新しいシステムの内容理解と普及推進に向けた利用説明会をオンラインで開催した。

「業務日報・収支管理支援システム」は、各森林組合の施業現場情報や勘定科目および事業名、各現場担当職員の人員費や林業機械経費等をマスタ登録したうえで、各現場担

当職員がシステムにログインされ、日々の業務日報(施業現場、作業工程、作業人工、利用機械等)を入力することで、施業現場ごとの収支管理や勘定科目ごとの月次事業費振替集計表が自動作成されるもので、まさに森林組合の事業収支管理の効率化と精度向上が期待されている。

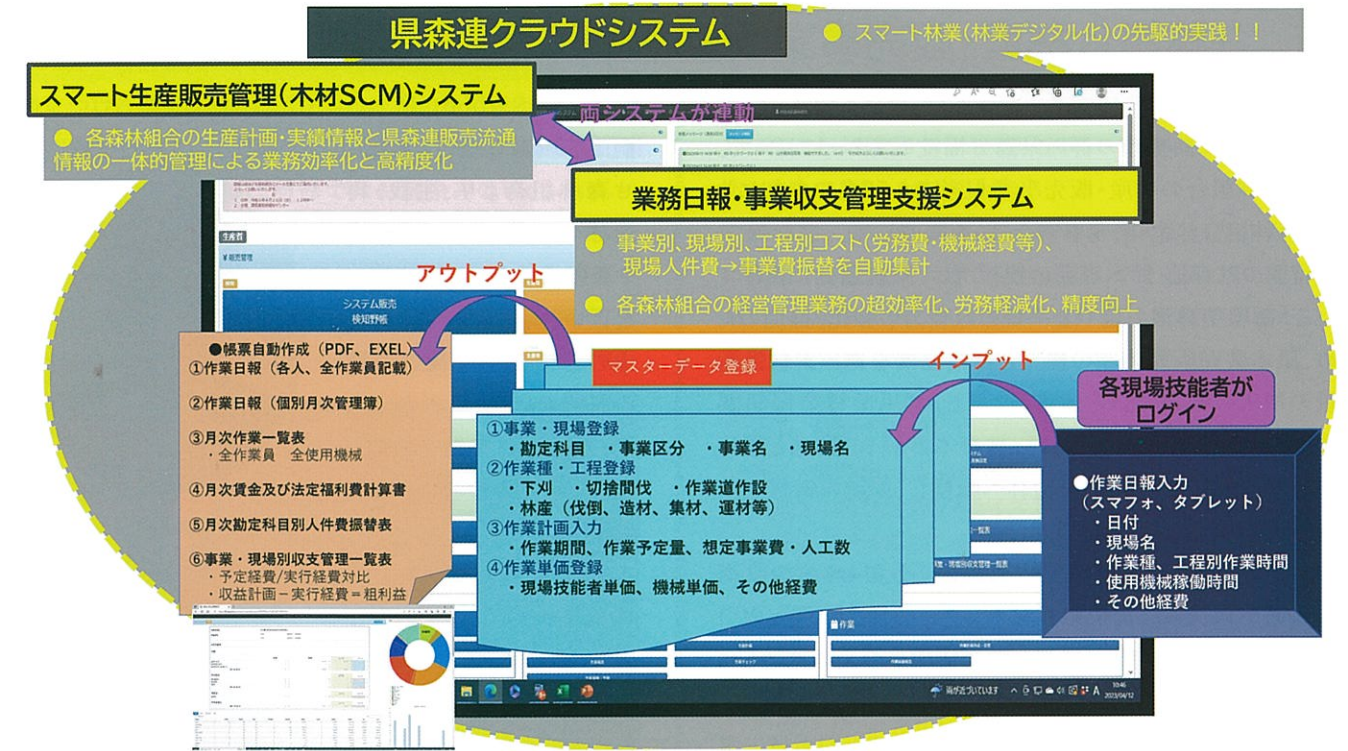
説明会では県森連高橋指導部長が、システム開発への経緯を踏まえ操作マニュアルに従い、具体的な各項目の入力方法と捉え方、集計帳票としての「作業日報出勤簿」「月次作業一覧表」「賃金および法定福利費計算書」「月次勘定科目別人員費振替表」「事業・現場別収支管理一覧表」について説明し、各森林組合での試用開始をお願いした。

この「業務日報・収支管理支援システム」は、スマート林業やデジタル化林業を身近に先駆的に実践できるツールであ

り、数ヶ月のテスト運用を経て今夏以降、より多くの会員森林組合での本格活用を目指していきたいと考えている。



▲web会議の様子



### 森林組合労働安全対策会議

群馬県が令和5年3月13日に『群馬県林業作業現場の災害・事故多発警報』を発令したことを受け、4月13日に群馬県林業現場作業の労災多発改善緊急対策会議(web開催)し、以降で警報について周知いただくとともに各森林組合での災害・事故多発警報への対応としての安全対策等について報告いただいた。

報告内容のとりまとめ結果を共有する目的で、4月26日に森林組合労働安全対策会議を開催した。

会議には、常勤役員等や担当職員及び県職員ら36名が参加した。県森連 鈴木専務の挨拶に続き、群馬県環境森林



▲安全対策会議

部 森林局 林業振興課 担い手対策室 竹内室長より挨拶いただいた。

次に林業振興課 担い手対策室 生産強化係 荒井係長より群馬県の林業労働災害事例や取組みとして「LPWA (不感地帯における新たな無線技術)の普及」・「伐倒練習機の導入・活用(伐倒練習)」、「消防との連携」等について説明をいただいた。



▲県林業振興課 荒井係長

次に県森連 梶川課長代理より各森林組合からの安全対

策等についてとりまとめた結果を報告した。

また、報告の中から県の取組みにもあった「災害時に消防署との連携」について現場での訓練を予定している森林組合からこの内容を報告いただいた。労働災害が発生した森林組合からは、安全会議や月例安全会議、現場安全パトロール等で労働災害防止対策を実施している中で発生してしまった労働災害事例も報告され、実際の林業現場での労働災害防止対策の難しさと安全対策の再検討について意見交換した。

なお、この会議の内容について各森林組合間において共有し、森林組合全体の安全対策の徹底に努めていきたい。

## 森林組合林産・販売事業会議 開催

4月23日に前橋市の群馬県勤労福祉センターにおいて、県内森林組合の林産・販売事業担当者57名の参加により「森林組合林産・販売事業会議」を開催した。

冒頭の県森連 鈴木専務の挨拶では、系統運動に掲げている「循環型林業の確立と系統の販売力の強化」推進のため、原木共同販売体制の構築と事業連携を進め素材生産量の増大に繋げたいと述べた。また、群馬県林業振興課 青木課長からも「群馬県森林・林業本計画」の推進と間伐中心だった施業を皆伐・再造林へ転換し、系統の素材生産量20万㎡の達成をお願いした。

最初の議題では、県森連木材部より令和4年度の県森連販売事業実績と渋川県産材センターの加工事業と取引先の状況及び直送販売先等の需要情報や今後の見通しについて説明が行われた。

続いて、各森林組合における令和4年度の年間素材生産実績と令和5年度の素材生産計画の状況報告を行い、各森林組合の協力事業者との連携状況や森林組合間連携など実施状況を含めた情報共有を行った。

また、「主伐・再造林への新たなチャレンジの状況」として

桐生広域森林組合とわたらせ森林組合より、主伐・再造林へのチャレンジの状況やその成果などの事例報告を行い、両組合からは施業中の苦労話や今後の課題の説明のほか、これから主伐・再造林の実施を検討している組合の参考になる報告となった。

続いて、群馬県における林業イノベーションの取り組みについて県林政課 林業イノベーション推進室 影澤室長より説明があり、スマート林業等の新技術を活用した低コスト林業の推進や県有林等を活用した実証事業の検討及び実施についての意見や要望を求めていきたいと述べた。また、林業イノベーション推進に向け、系統と共に、この体制整備を進めたいと述べた。

続いて県森連で現在運用中の「県森連クラウドシステム」の利活用について県森連 高橋指導部長より説明があり、素材生産計画から流通管理の連動及び業務日報・事業収支管理システムの活用方法等の説明が行われた。また、会議の最後には森林経営管理実施権の実施に係る会計処理等の経理についての説明が行われ会議は閉会した。



▲林産・販売事業会議の様子

## 令和4年度 伐倒技術者育成講習(Check&Clinic)研修開催

本県の林業現場の災害のうち、伐木造材作業に伴うものが約7割を超え、そのうちチェーンソーによる伐木作業が約6割を占めている。また大径化する立木や手入れ不足の森林での伐倒においては、より正確な伐倒技術の習得による安全な伐倒作業が求められている。そこで労働災害の減少に向け、県が導入した伐倒練習機※1を活用したCheck&Clinic研修が令和5年1月25日から2月8日の期間での開催と、令和5年2月9日から2月24日の期間での開催の同内容研修がそれぞれ6日間、3名の受講生で計12日間、6名で開催された。

本研修は受講者それぞれのチェーンソーによる伐倒技術レベルを自己認識し、改善点を洗い出し、正確な伐倒技術を身につける事を目的とし、10 Steps Method※2に沿って自己研鑽を行っていく研修である。講師は、本県では毎年開催されている指導者養成研修ではお馴染みのWoodsmen Workshop LLC代表の水野雅夫氏によって行われた。また、本研修は令和5年度に開催予定の指導者養成研修へ臨むための、前段に位置付けられている研修となっている。

研修初日では座学により、【労災の現状や内容について】、

【なぜ正確な伐倒が求められるのか】、【伐倒のメカニズム】など講義が行われた。研修2日目から最終日までは伐倒練習機を活用しての実習が行われ、Step1から10まで、受講者各々技術レベルを確認し、どうしてできないのか、どうしたらできるようになるのかを考え、自問自答しながら技術向上に向け実践していく内容であった。自身で行き詰った際には受講者間でお互いの姿勢や立ち位置、チェーンソーの動きなど意見を出し合い、一緒になって考える場面なども見受けられた。

最終日の午後からは受講者による技術レベル確認を踏まえた「伐倒の受け口・追い口作成」の一定レベル基準※3を設けたコンペが開催された。残念ながら全員の基準達成とはならなかったが、受講者各々技術向上に向けた今後のやるべきことが確認できたそんなコンペであり、研修内容であったのではないと思われる。

研修終了後の受講者からのアンケートでは『基本がいかんにか、そしてそれが出来ていないことに気づくことが出来、正確な作業を心がけていきたい。』『研修で学んだことを現場で実践していこうと思った。』などの感想があった。



▲iPadを活用し伐倒姿勢の確認



▲水平器を活用し検証

※1 斜面を再現して反復練習が可能な機械

※2 10 Steps Method

Step1 <<ひたすらスライス>>

水平にスライスしてガイドバーの先下がり(先上がり)と進行方向への勾配角を測り、それぞれの角度を0度に近づける。

Step2 <<斜め切り水平フィニッシュ>>

受け口の斜め切りを想定しながら切り下げ、ガイドバーの先が下がったり上がったりせず水平に切り終わらせるようにする。

Step3 <<水平出し入れ>>

水平に10cm程度切り込んだガイドバーをスムーズに出し入れできるようにすることで、フォームのプレを修正し安定度を高める。

Step4 <<斜め出し入れ>>

斜めに10cm程度切り込んで、Step3と同様に出し入れし横方向へのフォームのプレを修正する。

Step5 <<どこまで?どこまで?(水平)>>

指定された深さまで水平に切り込み、イメージした切削量と実際の切削量を一致させ、そのためのボディーコントロールを身につける。

Step6 <<どこまで?どこまで?(斜め)>>

指定された深さまで斜めに切り込み、イメージした切削量と実際の切削量を一致させ、そのためのボディーコントロールを身につける。

Step7 <目安線を作る>

「折れ曲がり線」を作る準備作業として、指矩をガタつきがないようにあてられる「目安線」を伐根直径の1/8程度の深さに作る。

Step8 <狙いを定める>

目安線に指矩を当て、狙いとのズレを把握し修正する。この段階では切り込む深さは問わず、目標に対して直角に狙えるようになるまで修正を繰り返す。

Step9 <折れ曲り線を作る>

目標に対して直角に狙えるようになったら、伐根直径の80%~94%の範囲内の長さで「折れ曲がり線」を完成させる。

Step10 <適切な蝶番(切り残し・ツル)を作る>

追い口を「折れ曲がり線」と平行に切り進め、幅、高さ共に均等で適正なサイズの蝶番(ツル)を作る。

※3 下図参照

伐倒基礎技術評価基準(案)

作成 Woodsman Workshop 合同会社/2022年12月

Table with columns: 折れ曲がり線 (狙い, 見立てとのズレ, 減点a), 蝶番 (幅のズレ, 高さのズレ, 減点b), 減点合計(a+b). Rows include 1級伐倒技能士, 2級伐倒技能士, 3級伐倒技能士, and 準伐倒士.

- ※1 審査用の丸太は、長さ1m50cm、直径20cmとする
※2 伐倒目標は10m離れた谷側45度位置に左右一つずつ設定すること
※3 左右二つの目標を狙った折れ曲がり線と蝶番を30分以内に完成させること
※4 折れ曲がり線の要件を満たすこと(傾斜角は上表参照) Woodsman Workshop刊「チェーンソーで木を伐る」参照
※5 受け口の開角は60°以上であること
※6 追い口の最終確認ラインは抜根直径の1/2とすること
※7 蝶番の幅は直径の10%~13%の範囲内とする
※8 蝶番の高さは直径の5%~20%の範囲内とする
※9 不適切な防護装備は審査不可
※10 失格となる不安全行動

※伐倒練習機MTW-01使用

「緑の雇用」事業

「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の集合研修及びOJT研修が昨年6月から開始し、令和5年1月末をもって全てのカリキュラムが修了した。令和4年度は34の認定事業体が事業を実施し、フォレストワーカー(FW)1年目15名、2年目21名、3年目16名(うち女性1名)、フォレストリーダー(FL)研修21名、フォレストマネージャー(FM)研修3名がそれぞれの研修を修了しFW3年目、FL研修、FM研修修了者については大臣登録の申請手続きをした。今後、群馬県内のそれぞれの林業現場での活躍が期待される。

「緑の雇用」新規就業者育成推進事業については令和5年度より「緑の雇用」担い手確保支援事業と名称を変更して実施する。



▲集合研修講義

今年度事業については、既に登録申請を行い、フォレストワーカー(FW)1年目18名(うち女性1名)、2年目15名、3年目19名、フォレストリーダー(FL)研修14名、フォレストマネージャー(FM)研修5名が承認された。なお、令和4年度補正では4月~5月にトライアル(TR)雇用研修を実施し、引き続き令和5年度事業で6月から8ヶ月間のFW1~3年目研修を実施する。また、FL研修については、7月から県内で実施する。なお、FM研修は例年通りブロック開催となる。

また、昨年度まで実施された多技能化研修を改変し、新たに造林事業や素材生産事業に取り組む林業経営体を対象に多能工化研修(造林作業の技術等の習得・伐採作業等の技術等の習得・デジタル技術スキルアップ研修)を実施する。



▲集合研修実習

Forest Insurance advertisement with text: 森林とともに80年 森林保険 台風や集中豪雨、火災など万が一の災害に備えることができます。

森林保険は、「森林保険法」(昭和12年法律第25号)等に基づき、森林所有者を被保険者として、森林についての火災、気象災、噴火災による損害を総合的に補償するものです。森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットです。

- 〈保険金のお支払いの対象となる8つの災害〉
火災 風害 水害 雪害
干害 凍害 潮害 噴火災

お問い合わせは、お近くの森林組合、または森林組合連合会へ

群馬県森林組合連合会：〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20
TEL: 027-261-0615 FAX: 027-261-0697

## ぐんま林業就業支援研修

群馬県では県内の林業就業を希望する方を対象に、平成23年度からぐんま林業学校(林業基礎研修)を実施してきたが、令和元年度よりぐんま林業就業支援研修と事業名を変更し実施している。今年度は9月に夏コース・1月に冬コースとして、それぞれ10日間の研修を実施した。

研修では林業の現場作業に必要な伐木造材作業(チェーンソー作業)の特別教育と刈払機作業安全衛生教育の資格取得や群馬県の森林・林業の現状や林業の現場作業についての講義、伐倒練習機(油圧ジャッキにより伐倒木の足場の調節が可能)を使い、実際の現場作業に近い環境でのチェーンソー作業を反復練習する実習、360°VRでチェーンソー作業の体験、ハーベスタシミュレーターで伐倒・造材の体験、県内の林業経営体での3日間の現場作業体験、現場作業に従事されている方を交えての意見交換会、研修後の就業に向けての就業相談といった内容で実施した。



▲伐倒演習

研修最終日に行われた意見交換会では相談員から「下刈り等の現場作業は重労働だが、手入れをしてきれいになった山林をみると達成感があり、やりがいのある仕事」、「蜂に刺されアナフィラキシーショックで入院した時は辞めたいと思ったこともあったが、現場作業は残業がないので自分の時間、家族との時間ができて生活は豊かになった」等の貴重な体験談を聞くことができた。

受講生からは、「インターンシップで林業のリアルな体験ができ、相性を確認でき、就業への不安感が軽減できた」、「この研修を通して現場作業の大変さや充実感を体験することができた」と、満足そうに話していたのが印象に残った。なお、この研修に夏コース4名、冬コース5名が参加し、2名が県内林業経営体への就業につながった。就業に結びついた受講生の皆さんには林業現場で元気に活躍されることを期待したい。



▲意見交換会

## 農林中央金庫 こども食堂へ木製品寄贈

去る3月6日に前橋市内の社会福祉総合センターにおいて、農林中央金庫前橋支店よりこども食堂ネットワークぐんまへ群馬県産木製品の寄贈式が行われた。

農林中央金庫では、地域の森林や林業への関心を高めるため2012年から公共施設等へ群馬県産材を使った木製パーテーションや木製消毒スタンドなどを寄贈しており、今回は木製収納ボックス48個を寄贈した。



▲寄贈の様子(左から県森連八木原会長・農林中金波多支店長・こども食堂ネットワークぐんま丸茂代表)

農林中央金庫前橋支店波多支店長は、木材を使用することにより森林の循環と温室効果ガスの削減を進めるとともに、木のぬくもりを感じやすく食事ができればと期待している。

また、この収納ボックスは本会が県産ヒノキを使用し作成しており、ヒノキの香りによるリラックス効果や殺菌効果などが期待されている。



▲木製収納ボックス

## 烏川流域森林組合によるSDGs (医・農・林)連携



県森連では、平成24年より医薬品メーカーと連携し、「国民病」と言われるスギ花粉症の治療薬の原料となるスギ花粉採取事業に取組み、治療薬を通じた社会貢献に繋がる活動を実施している。

この花粉採取事業は、県内の碓氷川森林組合と赤城南麓森林組合で約10年前よりスギ花粉の採取を行ってきたが、ここ数年治療薬の需要が多く、この治療薬の生産にあわせ原材料となるスギ花粉採取の要望も高まっている。こうしたことから昨年より県内組合へ改めて花粉採取事業への参加を呼び掛けた。そして本年より、新たに烏川流域森林組合、桐生広域森林組合、わたらせ森林組合の3組合が花粉採取事業に加わり実施した。

このスギ花粉採取事業の内容は、山林等での立木の伐採、枝採取、枝剪定を行い、剪定した枝をハウス内で水培し、飛散(開花)するタイミングで花粉を採取し、計量・保管・出荷の手順となる。

今回は新たに事業参入した烏川流域森林組合の異業種との連携を図った取組について紹介する。

この事業に必要な設備として、水培や採取作業を行うビニールハウス、剪定枝の保管場所、水培用の水道設備、電気設備、この一連の作業を行う人員等が必要となるが、烏川流域森林組合では、このような設備や人員がないことから地域内連携を模索した。まず、花卉農家で使用していないビニールハウス2棟

を借上げ、保管・作業スペース・水培用の水道設備・電気設備を確保したことにより事前投資コストが抑えられた。また、作業を行う人員についても、新規就農者の冬季の収入減を確保するための作業として行ってもらうことにより、林業と農業の連携事業と位置付けて実施する事ができた。

新たな試みとあつてはじめは不慣れな手探り状態が進めたが、次第に作業効率も良くなり計画以上の花粉採取ができた。

組合としては、新規事業として取組んだが予想以上の実績を上げることができたほか、通常業務にも支障がなく、農業の担い手と林業の互いがプラスになることができた。また、新たなビジネスモデルとして医・農・林の連携による社会貢献の実現は、系統運動の推進およびSDGsの実践に繋がっており、更なるビジネスチャンスと捉え期待も高まっている。

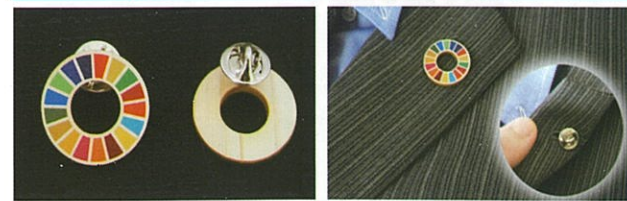


▲スギ水培の状況

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



### SDGs (持続可能な開発目標) とは?

SDGsとは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

# 森林組合ニューフェイス

令和3年度から現在にかけて森林組合に就職された職員の皆さんを紹介します。

氏名 ①所属部署・担当 ②就職年月日 ③趣味・特技 ④抱負を一言

## 【 渋川広域森林組合 】



### 元木 里玖

- ①業務課
- ②令和5年4月3日
- ③バスケットボール、サウナ
- ④初めての仕事が多く、なれないことも多いですが一生懸命頑張って皆さんについて行こうと思うのでよろしくお願いします。

## 【 神流川森林組合 】



### 唐澤 成海

- ①総務課
- ②令和5年3月1日
- ③ドライブ、自然観察
- ④一日も早く組合の皆さまのお役に立てるよう、日々努めてまいります。よろしくお願いいたします。

## 【 上野村森林組合 】



### 飯塚 雅人

- ①業務課
- ②令和5年4月1日
- ③アニメ、読書
- ④1日でも早く組合の仕事を任せてもらえるよう、努力していきたいです。よろしくお願いいたします。

## 【 多野東部森林組合 】



### 小塚 凜太郎

- ①業務課
- ②令和5年4月1日
- ③筋トレ、旅行
- ④早く一人前になり、美しい自然を守りたいと思います。

## 【 下仁田町森林組合 】



### 吉岡 優

- ①指導課 書記
- ②令和4年3月1日
- ③テニス
- ④先輩方を見習い、しっかり学びながら頑張っていきたいと思います。



### 三井田 大地

- ①指導課 技師
- ②令和4年7月1日
- ③テニス、スキー
- ④今まで、現場作業で経験したことを活かして、現場作業がやりやすくなるようにサポートしていきます。

## 【 南牧村森林組合 】



### 齋藤 桃絵香

- ①総務・書記
- ②令和4年11月7日
- ③K-POPを聴くこと
- ④先輩方のお力をお借りしながら、まずは早く仕事を覚えて少しでも組合の役に立てるよう頑張りたいと思います。

## 【 烏川流域森林組合 】



### 大久保 岳

- ①森林整備課 技師補
- ②令和5年4月1日
- ③映画鑑賞
- ④昨年度までは、東京都にて主に造林作業を行う会社に勤めていました。新たな環境で自分自身のレベルアップ、そして、組合に貢献できるよう日々努力していきたいです。よろしくお願いいたします。

## 【 吾妻森林組合 】



### 時澤 緑

- ①林産課
- ②令和4年4月1日
- ③スポーツ観戦
- ④地域の方々に喜んでいただけるように、日々の業務に取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。

## 【 わたらせ森林組合 】



### 山田 慎之亮

- ①事業課 技師
- ②令和3年6月1日
- ③アーチェリー
- ④地域や組合員の方々に頼っていただける職員になれるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 【 県森連 】



### 竹澤 響

- ①販売課
- ②令和4年4月1日
- ③読書、映画鑑賞
- ④まだまだ覚えることはたくさんありますが連合会のお役に立てるよう、日々の仕事に取り組んでいきたいです。よろしくお願いいたします。



### 福島 穰

- ①購買課
- ②令和5年4月1日
- ③野球、旅行
- ④多くの仕事を正確に覚え、自分から進んで仕事に取り組み、日々努力してお役に立てるようやっています。

# 群馬県環境森林部 人事異動

群馬県では、4月1日付人事異動を発表した。

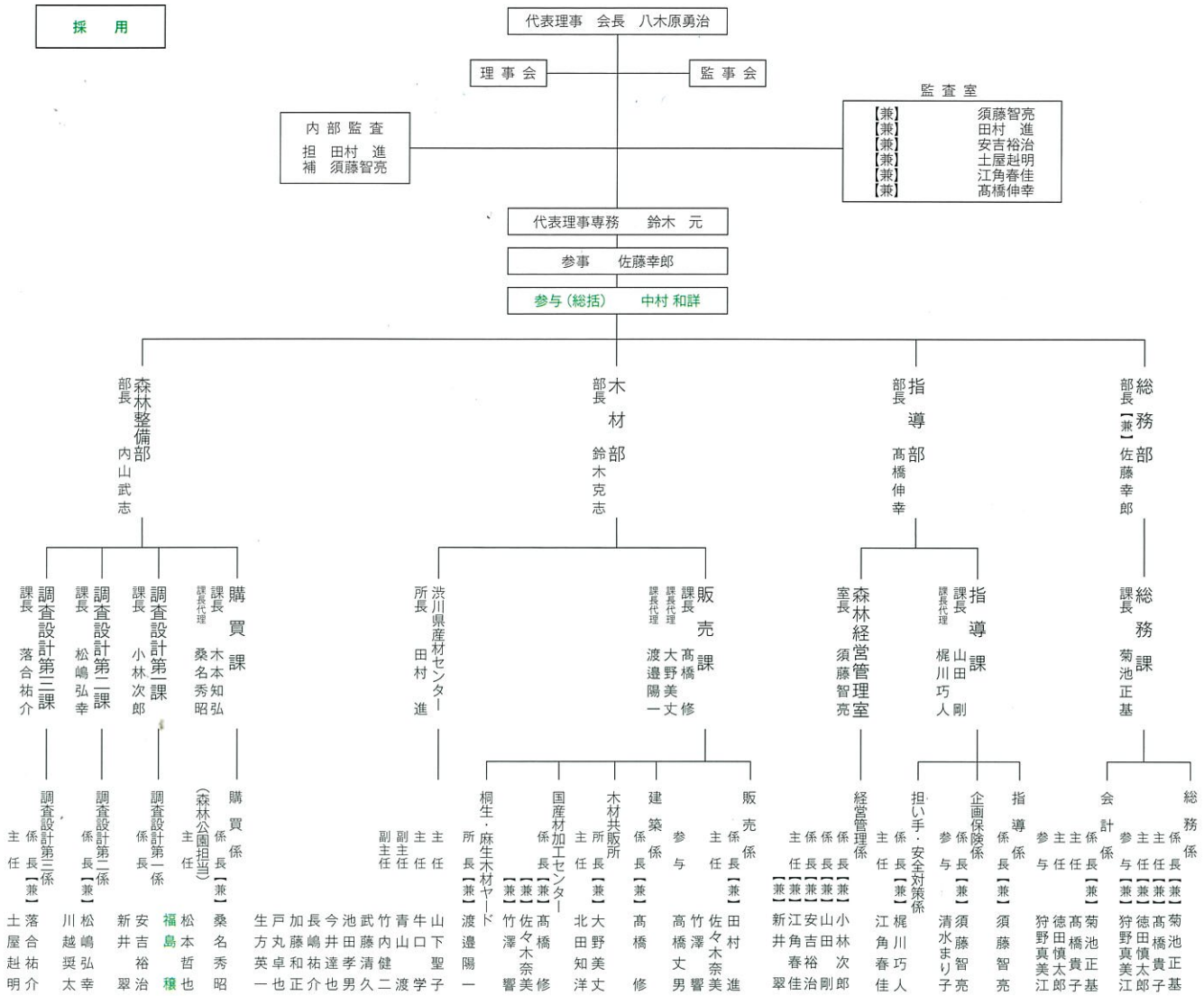
環境森林部森林局各課及び各環境森林事務所の主な人事異動は以下の通り  
(敬称略、カッコ内は前職)

- 東田 健靖 森林局長(林政課長)
- 稲村 功 環境保全課長(衛生環境研究所副所長)
- 石井 年香 自然環境課長(自然環境課尾瀬保全推進室長)
- 白田 栄慈 自然環境課尾瀬保全推進室長(産業経済部産業政策課産業戦略室長)
- 黒沢 勉 林政課長(森林保全課長)
- 影澤 圭太 林政課イノベーション推進室長(林業振興課次長)
- 青木 均 林業振興課長(利根沼田環境森林事務所長)
- 竹内 忠義 林業振興課林業担い手対策室長(桐生森林事務所経営管理専門官)
- 石丸 順 森林保全課長(森林保全課緑化推進主監)
- 佐藤 高彰 渋川森林事務所長(森林保全課次長)
- 笹木 元之 西部環境森林事務所長(桐生森林事務所長)
- 小林 直己 藤岡森林事務所長(藤岡森林事務所経営管理専門官)
- 折田 知徳 吾妻環境森林事務所長(林政課経営管理室長)
- 茂木 好一 利根沼田環境森林事務所長(中部環境事務所長)
- 湯浅 克巳 桐生森林事務所長(利根沼田環境森林事務所経営管理専門官)
- 坂庭 浩之 林業試験場長(林業試験場上席研究員)

# 県森連 機構改正及び人事異動

## 運営機構図及び役職員の配置状況

令和5年4月1日現在



### 県森連人事異動 県森連の人事異動が4月1日に次の通り発令となった。(敬称略)

氏名	職名	備考
福島 穰	森林整備部購買課購買係	採用
中村 和詳	参与(総括)	採用

### あとがき

4月にはオンラインも含め系統会議をいくつか開催し情報共有でき、本会指導事業としては上々のスタートになりました。しかし、そのテーマのひとつは「群馬県林業作業現場の災害・事故多発警報」(3月13日発令)の対応であり、あらためて労働安全推進の強化を再確認したところです。

各森林組合におかれましては、「今日労災が起り得る」と毎朝全員で強く意識いただき、あらためてゼロ災害を実現いただくようお願いいたします。(高橋)

